

平成 23 (2011) 年度 東北大学法科大学院入学試験

試験科目：刑事法（刑事訴訟法）

【問題】

平成 22 年 4 月 18 日午前 1 時ころ、甲市乙町 1 丁目 5 番 2 号所在の丙マンション 2 階 205 号室に住む W が、最寄りの地下鉄乙町駅前にある居酒屋を出て、住宅街を 10 分ほど歩いて自宅のある丙マンション近くの角を曲がると、同マンション 2 階 202 号室の、真っ暗な V 方室内から人影が出て来て、ベランダから路上に飛び降りるのが見えた。

W は、妻から、202 号室住人の V 夫妻は同月 15 日から 1 週間、海外旅行で留守になると聞いていたことから、曲がり角の塀の陰に隠れて様子を窺っていたところ、V 方ベランダから路上に飛び降りた男が辺りを見回した後自分のいる方に歩き出したので、塀の陰から姿を現し、「誰だ。何してるんだ。」と声をかけると、その男は乙町駅と反対方向に走り出した。

W はその後を 130 メートルほど追ったが、その姿を見失ってしまったため、携帯電話で 110 番に通報して、「午前 1 時 10 分ころ、丙マンション 2 階 202 号室の V さん方から出て来た見知らぬ男が、ベランダから路上に飛び降りて逃走した。男は、年齢 20 代後半くらい、身長 170 センチくらい、黒ジャンパーにジーンズを着た痩せ型だった。自分は、妻から、住人の V さん夫妻は 15 日から 1 週間、海外旅行で留守だと聞いている。」と伝えるとともに、W 自身の氏名、住所と携帯電話の番号を知らせて電話を切った。

同日午前 1 時 21 分ころ、甲警察署勤務の K 巡査部長と L 巡査は、通信司令室からの、「甲署管内に不審者。午前 1 時 10 分ころ、甲市乙町 1 丁目 5 番 2 号丙マンション 2 階 202 号室 V 方から出て来た男が、ベランダから路上に飛び降りて逃走。住人の V 夫妻は 15 日から 1 週間海外旅行で留守。逃走した男は、年齢 20 代後半くらい、身長 170 センチくらい、黒ジャンパーにジーンズを着用した痩せ型の男。丙マンション 205 号室 W さんから通報。」との無線手配を傍受したため、捜査車両（いわゆる覆面パトカー）に乗り込み、乙町方向に向かった。

同日午前 1 時 27 分ころ、丙マンションから 210 メートルほど離れた甲市乙町 3 丁目 12 番 5 号先路上にさしかかったところ、K 巡査部長は、丙マンション方向から乙町駅の方に歩いてくる、身長 170 センチくらいで、黒っぽい無地のジャンパーにジーンズを着た痩せ型の男（X）を発見した。車を近づけていくと、付近で営業していたコンビニエンスストアの照明で、X の年齢が 30 歳前後であることが確認できたので、L 巡査が降車して、「警察ですが、よろしいですか。」と呼びかけると、X は突然向きを変えて走り出した。

L 巡査は、「待ちなさい。」と言いながら、丙マンション方向へ 70 メートルほど追いかけて X の右肩に軽く手をかけると、同人が路上に転倒したので、これに覆い被さるようにして押さえ込んだ。X は特に抵抗する姿勢を示さなかったため、同人がけがをしていないことを確認した後、L 巡査は、X に手を貸して立ち上がらせ、「どうして逃げたんだ。」と尋ねたが、X は、「関係ねえだろ。」と言ったきり、質問に答えなくなってしまった。

そこで、K 巡査部長は、W の携帯電話に電話をかけて、X のいる場所まで来てくれるように求めた。同日午前 1 時 33 分すぎ、その場に到着した W を X と対面させたところ、W が、「さっき、丙マンションの 2 階から飛び降りたのは、この人です。」と述べたことから、午前 1 時 35 分、K 巡査部長は、X を、V 方への侵入の現行犯人として逮捕した。

K 巡査部長及び L 巡査の本件活動の適法性について論じなさい。